

金沢市の家計収支の概況

1 全世帯の家計

(1) 消費支出の概況

消費支出は2年連続減少に

平成16年の金沢市・全世帯における消費支出は、1世帯当たり1か月平均323,081円(全国平均304,203円)で、前年に比べ名目で8.4%の減少となった。また、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)が0.3%低下したことにより、実質では8.1%の減少となった。

最近の動きを見ると、消費支出の対前年の実質増加率は平成8年から11年までは増減を繰り返し、12年5.0%、13年3.8%と2年連続の減少となった後、14年5.0%と増加となり、15年は1.3%、16年8.1%と2年連続減少になった。(図1, 2参照)

全世帯：調査世帯数96世帯、平均世帯人員3.30人、世帯主の平均年齢52.0歳

図1 1世帯当たり1か月平均消費支出額の推移(金沢市・全世帯)

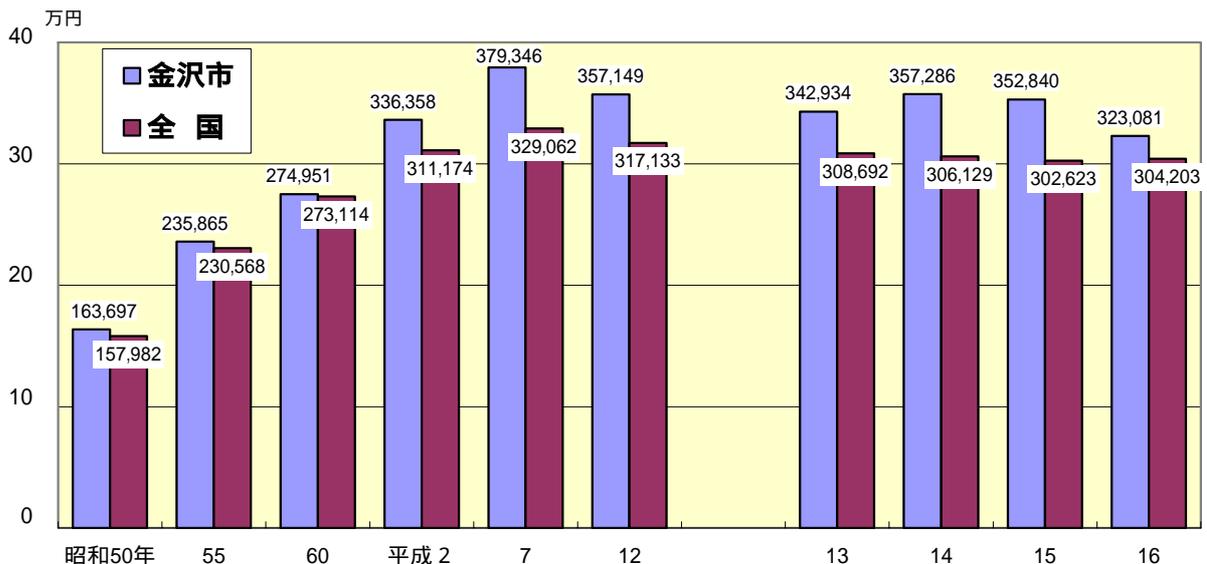
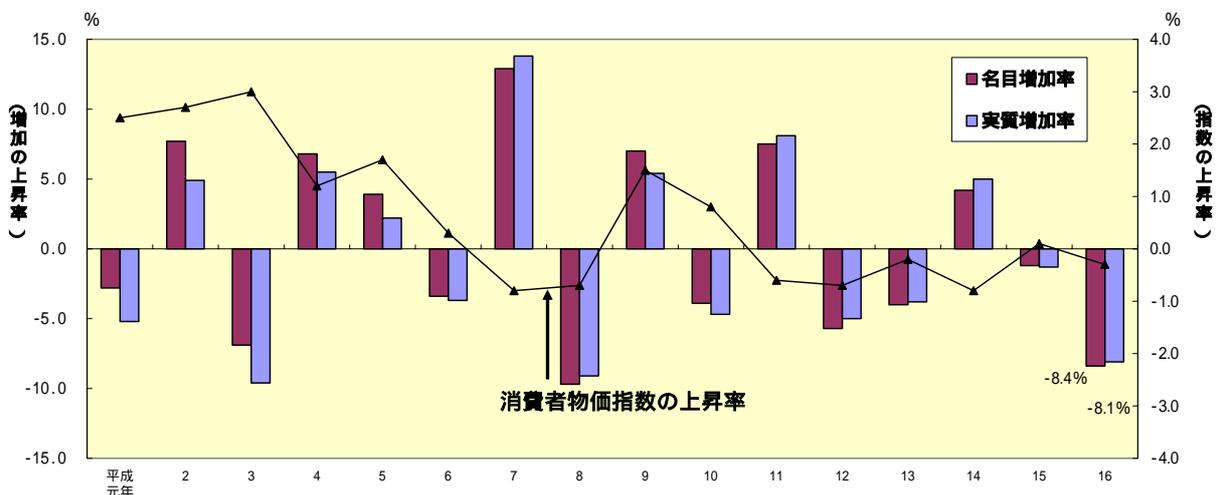


図2 1世帯当たり1か月平均消費支出の対前年増加率(金沢市・全世帯)



また、1人当たりの1か月平均消費支出をみると、平成16年は97,903円（全国平均95,361円）で前年に比べ実質で9.6%の減少となった。（図3，4，5参照）

図3 1人当たり1か月平均の消費支出額の推移（金沢市・全世帯）

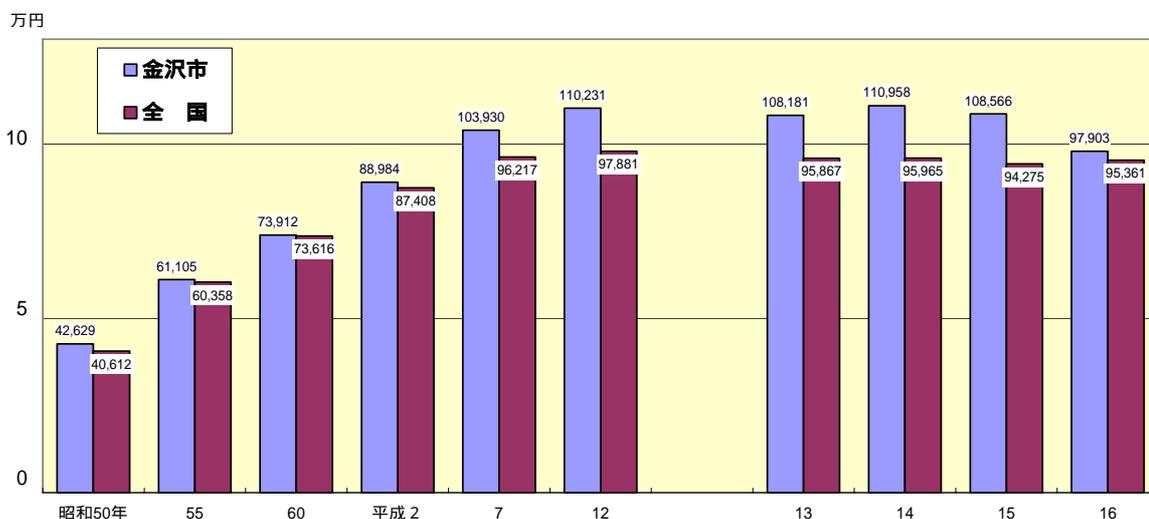


図4 1人当たり1か月平均の消費支出の対前年増加率（金沢市・全世帯）

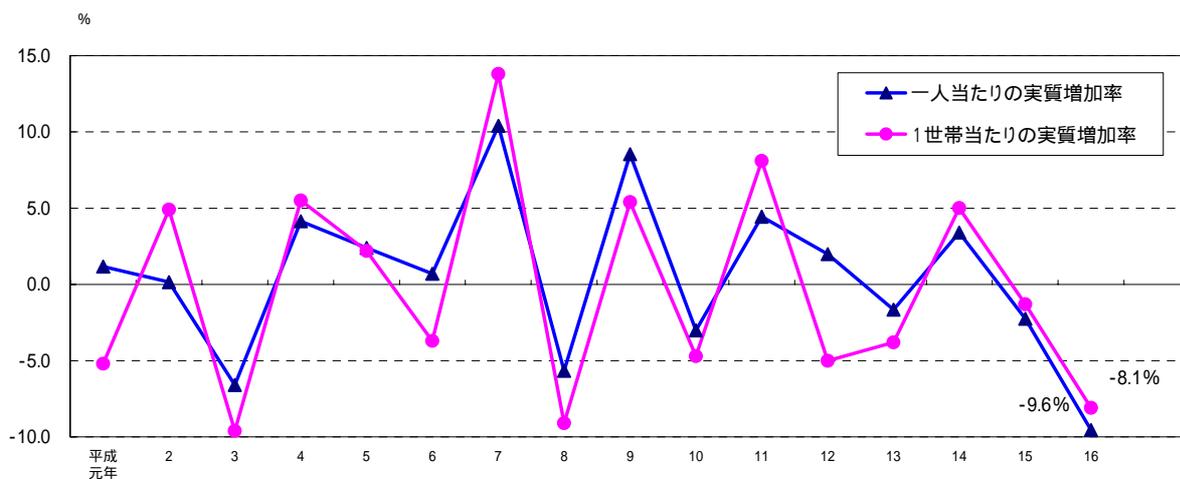
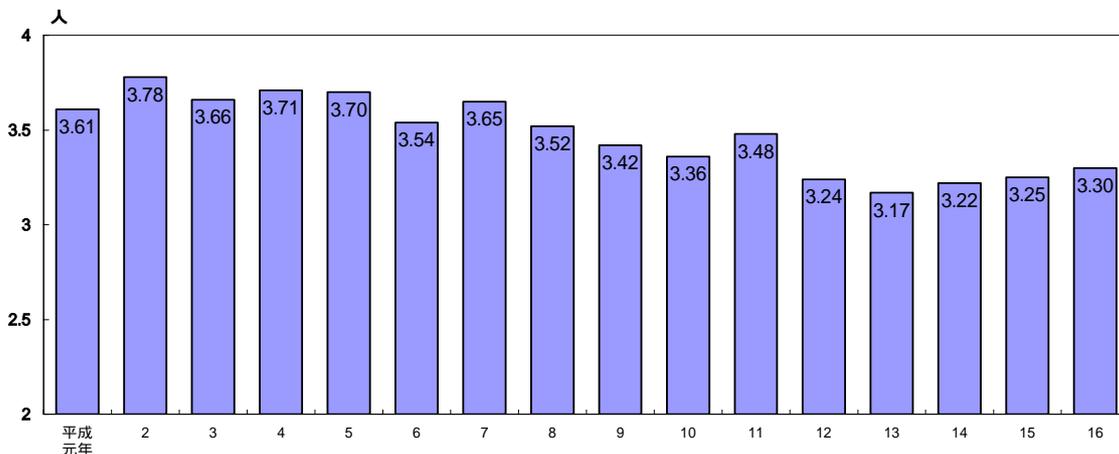


図5 平均世帯人員の推移（金沢市・全世帯）



(2) 消費支出の費目別内訳

消費支出（生活費）の特徴を10大費目別に、前年と比べてみると、光熱・水道、家具・家事用品、保健医療などが実質増加し、住居、被服及び履物、教育、などが実質減少した。

(図6参照)

費目の内容についてはP41,42を参照

食料

1世帯当たり74,213円で、実質1.5%の減少。穀類、肉類、野菜・海藻、調理食品が減少する一方で、魚介類、飲料、酒類、外食が増加。

住居

1世帯当たり19,419円で、実質29.2%の減少。設備修繕・維持が大幅な減少。

光熱・水道

1世帯当たり24,281円で、実質2.7%の増加。電気代、ガス代、上下水道料が共に増加。

家具・家事用品

1世帯当たり8,893円で、実質3.3%の増加。家庭用耐久財が増加する一方で、室内装備・装飾品が大幅な減少。

被服及び履物

1世帯当たり13,579円で、実質12.5%の減少。履物類増加したほかは、洋服、シャツ・セーター類、下着類が減少。

保健医療

1世帯当たり13,810円で、実質13.8%の増加。医薬品が、減少する一方で、保健医療用品・器具、保健医療サービスが大幅な増加。

交通・通信

1世帯当たり40,626円で、実質0.2%の増加。交通、通信が減少する一方で、自動車等関係費が増加となる。

教育

1世帯当たり15,059円で、実質4.4%の減少。補習教育が大幅に増加したが、授業料等、教科書・学習参考教材が減少。

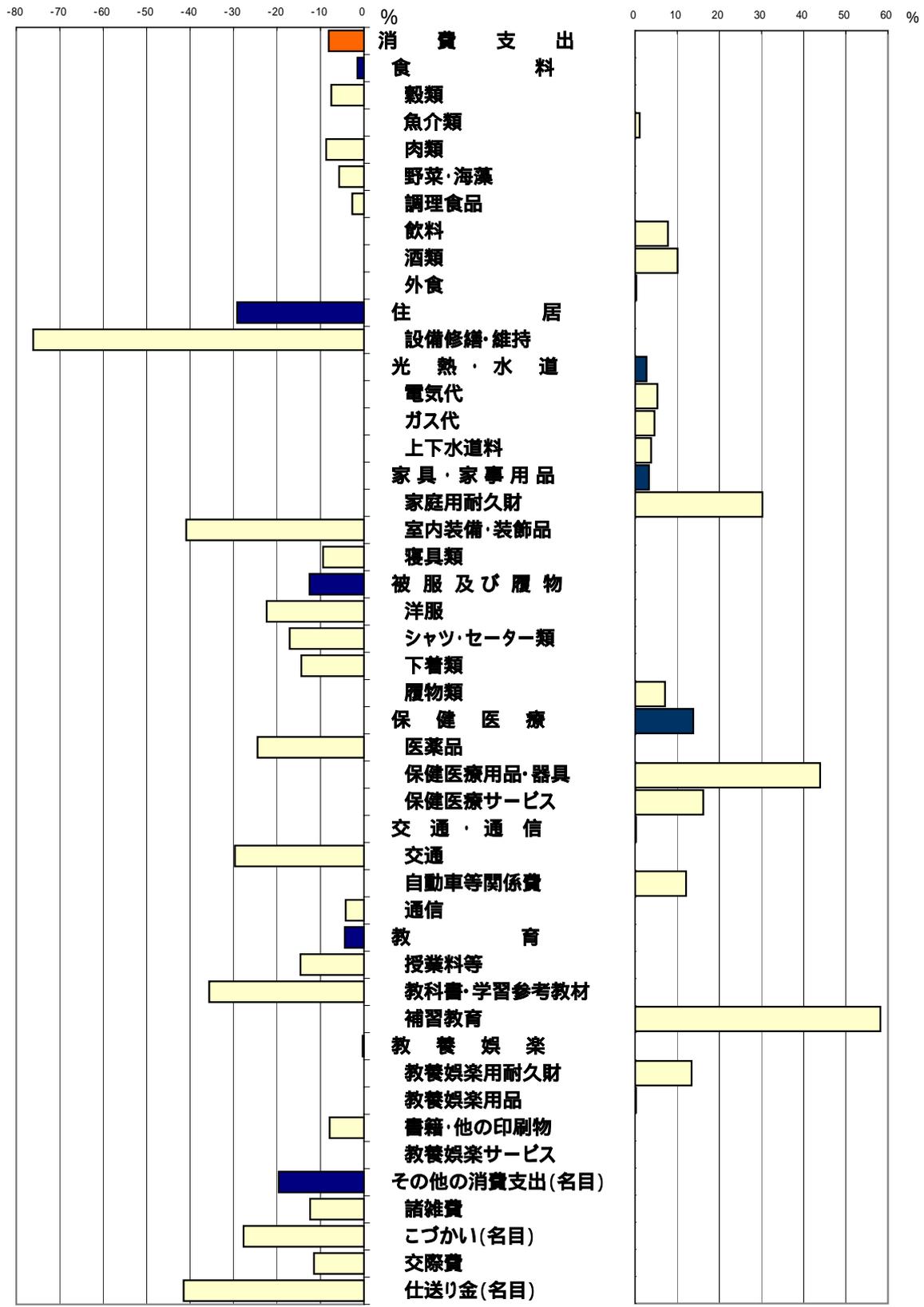
教養娯楽

1世帯当たり34,410円で、実質0.3%の減少。教養娯楽用耐久財が増加する一方で、書籍・他の印刷物が減少。

その他の消費支出 名目

1世帯当たり78,792円で、名目19.6%の減少。諸雑費、こづかい、交際費、仕送り金が共に減少。

図6 消費支出の費目別対前年実質増加率
(金沢市・全世界帯)



:消費支出
 :10大費目(大分類)
 :主な中分類

(3) 消費支出の費目別構成比の推移

教養娯楽の割合は4年連続の上昇

平成16年の消費支出の費目別構成比をみると、食料が占める割合(エンゲル係数)は前年比1.6ポイント上昇して23.0%となった。また、交通・通信(12.6%)が1.1ポイント、保険医療(4.3%)が0.9ポイント、光熱・水道(7.5%)が0.8ポイント、教養娯楽(10.7%)が0.8ポイント、家具・家事用品(2.8%)が0.3ポイント、教育(4.7%)が0.3ポイントそれぞれ上昇した。

一方、その他の消費支出(24.4%)が3.4ポイント、住居(6.0%)が1.9ポイント、被服及び履物(4.2%)が0.2ポイント低下した。

昭和50年と平成16年を比べると、食料は9.6ポイント低下し、被服及び履物が6.5ポイント、家具・家事用品が3.1ポイント低下した。

一方、交通・通信は携帯電話の利用増加やインターネットの普及等により、7.4ポイント上昇した。

なお、金沢市の費目別構成を全国と比べても、ほぼ同じ割合となっている。(図7参照)

図7 消費支出の費目別構成比の推移と全国との比較(金沢市・全世帯)

